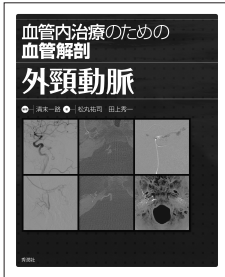




血管内治療のための血管解剖 外頸動脈



編著：清末一路
著：松丸祐司
田上秀一

学研メディカル秀潤社
2013年9月刊行
AB判 144ページ
定価：本体5,400円+税

外頸動脈に関連する治療になじみのない方にとっては、外頸動脈だけで本が一冊できることに驚きを感じられるであろう。執筆者らは外頸動脈という複雑な血管系を、最近の画像診断装置を用いて3次元的な理解を広めようと、隔々にまで工夫を凝らして本書を仕上げている。手に取ってページをめくると、まず美しい画像がこれでもかと目に飛び込んでくる。しかし、少し詳しくみようとすると、まるでパズルを解くかのように目を右左に飛ばす努力が求められる。しかし、脳の中で大きな木の幹のようになったそれぞれの本幹からの枝分かれを少しずつ辿ることでき、そこからの景色を楽しむことができる。

編著者の清末一路先生はその風貌から得られる印象とは異なり(ゴメンナサイ)、綿密な計画を立てて治療をされる方で、その計画は本書が示すように詳細な血管解剖学に基づいている。美しくわかりやすい図は彼の論文に多用されている。コンピュータで描かれているがどれも同じ筆致で描かれ、その図があるだけで彼の論文だとわかる。まるでOsborn先生の教科書の図のようである。さらに松丸祐司先生は、脳血管内治療の第一人者であり、本書の中でも特に秀逸な画像が示されている。また、清末先生の後輩の田上秀一先生の力量をよく示す努力の書でもある。本書の完成に祝意を表す。

本書は血管内治療医を主たる対象に書かれている。本書を知らずに外頸動脈系に手を出す輩は、“もぐり”といわれるようになることを確信する。一方、詳細な血管解剖を理解することは、CTやMRIで単に血管と思っていた構造物に意味を与える点で画像診断医にとっても、そして、その血管を切断し、吻合することにさらなる知見を贈る意味でも、頭頸部外科の医師・歯科医師にとっても必携の書である。

日本語で書かれた本書を英訳していただきたいと思うのは私だけではあるまい。著者らがバリエーション豊富な静脈系をどのように料理するのかを次の楽しみにしている。

(久留米大学医学部放射線医学講座 安陪等思)

